『愛を読むひと』　原題：　THE READER　2008

映画批評
『愛を読むひと』　原題：　THE READER　2008
～　読む・読めない・読まない、を暗喩として警鐘する
塚田三千代（翻訳家・映画アナリスト）
©m.tsukada

映画は 1995 年、52 歳のマイケルの少年時代の回想で始まり、ハンナとの初恋、本の朗読、ハンナの突然の失踪、ハンナがナチス親衛隊員として法廷で裁かれるのを目撃する。マイケルは法史学者になり家族を持ち、ドイツ第 3 帝国時代の法律の研究家となる。離婚後に服役中のハンナへ朗読の録音を 10 年間送り続ける。特赦でハンナは出所できることになる。その日にハンナの死を知る。娘ジュリアと一緒にハンナの墓参りをして過去を語るマイケル。

マイケルは高校生の頃、ひと夏の　‘生ある初恋’を体験するが、ハンナの突然の失踪により大きな喪失感を味わう。映画はこれを序奏にして、ナチス政権下で起きた教会焼殺事件で告発されるハンナ・シュミッツをクローズアップする。大学の特別ゼミで偶然にこの裁判を傍聴したことがマイケルを悩ませる。彼はハンナが非識字者を隠していることを知る。そして国家法律の正当性を追求する青年マイケルの人生を変えていく。後年、マイケルはドイツ第 3 帝国時代の法律を専門とする法史学者になる。
『愛を読むひと』の原題は THE READER（朗読者）である。映画は前半で、15 歳の少年がハンナとの関わりを通して自立心を確立していく過程を描き、後半では、ナチス政権下の禁書や名著の焼却を命じられたドイツ国民が、思考の麻痺した状況の中で‘本を読む／読めない’という事態そのことが国家をゆるがしたことをメッセージとして次世代への警鐘として突き付けている。

スティーヴン・ダルドリー監督はフラッシュバックや会話や映像のオーバーラップを多用して、暗い事件を薄膜で包みこみ、伝えたい真意をやや不透明にしている。映画のクライマックスは、教会焼失事件を裁く法廷で応答する被告人ハンナ、これを傍聴する教授と学生たちが特別ゼミで討議する場面である、服役中の拘置所へ朗読録音テープを 10 年間送り続けたマイケルの朗読シーンとテープを受け取ったハンナが独自に読むことを学んでいく場面である。映像はハンナに聞かせる朗読を自室で録音するマイケルの姿に、拘置所でテープを聞きながら読み書きを自力で習得するハンナの姿がオーバーラップして交互に入れ替わる。このハンナ役を冴えたる力量で演じて、ケイト・ウィンスレットは見事にアカデミー賞・最優秀主演女優賞のオスカー像を受賞した。

第2次大戦下でナチス親衛隊がとった行動として、アウシュビッツ収容所の強制収容の元看守たちが裁かれる。教会焼失事件を裁く法廷で裁判長に向かってハンナは凛々しく質問し、それが自分の不利になるにもかかわらず、罪状判決書の署名は自分だと認めるハンナであった。マイケルは彼女が非識字者であると気づいたのだが_____。映画は重くるしい問いを我々に投げかけている。本映画は読み深めることの難しい作品になっているが、「世代にとらわれずに観る側が事実と真意を見極めて欲しい」と、監督は願っているにちがいない。文学は文字の行間を読んで意味が深まるが、映画は映像を読んで真意が深めるのである。

【ストーリー】

本映画は、第2次世界大戦の終末期から戦後へと移りゆくドイツの社会情勢を知れば、物語の深層が理解しやすくなる。ここでは年代を表記しながら時系列でストーリーを追ってみよう。

映画のストーリーは、思い出は記憶の貯蔵箱にあると云う、1995 年に 52 歳になったマイケルの回想が始まる。

1958 年のベルリン____。当時、ギムナジウム 6 学年のマイケルは下校途中で体調が悪くなり、ある女性に助けられる。市電の切符切りをしているハンナである。彼女は 1943 年に 21 歳でナチス政権の親衛隊に入隊し、強制収容所の看守を務めたあと、戦後にベルリンへ来ていたのだが、この事実をマイケルは後年、裁判の証言シーンを見学するまでは知らない。

1945 年 5 月、第 2 次大戦で降伏したドイツ。ベルリンは敗戦からようやく復興途上にある。2 人が出会った当時、ハンナは 38 歳、マイケルは 15 か 16 歳であった。下校途中で具合の悪くなった自分を介抱してくれた年上の女性の美しさにひかれて生ある初恋に落ちてしまうマイケルであった。彼にとっては母と息子ほどの年齢差は存外で、ハンナとなら一緒に並んで歩くことも平気であった。そんなハンナのために本を朗読して ‘生ある恋’に満ちた時を過ごすことがマイケルには最高の喜びであった。

しかし、突然の別離… 。そして数年後の 1966 年に再会したのは、マイケルが Heidelberg Law School の法律ゼミで、強制収容所裁判の法廷を見学したときであった。ハンナは独・親衛隊による強制収容所の関連事件として、教会焼失事件を裁く法廷に召喚されていた。そし

て無期懲役の判決を宣告された。このときのハンナは 43 歳。字を読めないことを隠し通し、他の女性看守たちの罪を彼女が一人で背負ったために刑の軽減を受けることができなかった。マイケルは傍聴席で一部始終を聞いて、彼女が隠している真実に気付いたが、それを言い出すことができなかった。 特別判決でハンナは無期懲役を言い渡された。

西ドイツでは 1963 年 12 月から 1965 年 8 月にかけて、「アウシュビッツ裁判」が頻繁に行われ、討論やデモ行進が賛否両論の立場でなされ、マスコミや世間の関心を極度に集めていた。マイケルの父親も戦争世代の人で、ナチス政権に批判的であったが距離をおきながら、人格と自由と尊厳などのモラルと法を分離する立場にいた。マイケルはハンナの秘密情報を明かすべきか否かの迷いに一人で悩んだ。だが、時は無言で過ぎていった。マイケルは「第三帝国時代の法律」を専門とする法史学者になって大学の教授職に就く。結婚して家庭を持つが、1974 年に妻と離婚し、幼い娘の養育をノイシュタットに住む母に託した後は、独りで暮らすようになり、ある日マイケルは本の朗読をテープに録音して服役中のハンナへ送ることを思いつく。

それはハンナの服役 8 年後のことだったが、その後 10 年間、彼はハンナに朗読の自作録音テープを送り続ける。最初に送ったテープは、高校生の時にハンナに初めて読んであげたホメーロスの「オデユッセイア」である。録音テープを受け取ったハンナはすぐに送り主がマイケルだと気付く。そして、自分で本を読むために独力で字を習得して読み書きができるようになる。51 歳で始める手習い事は大変な努力だが、彼女はそれを成し遂げた。そして、「アウシュヴィッツ裁判」の記録も読めるようになった。マイケルがカセットテープを贈り続けて 4 年後のことであった。はじめてマイケルにハンナから手紙が来た。筆跡は年長の人によくある書き方でとても力強かった。 ついにハンナは書けるようになったのだ。そして文学についてコメントも書いてくるようになった。恩赦によってハンナは出所できることになり、マイケルが引き受けることになる。

食堂で面会したマイケルはハンナに “Have you spent a lot of time thinking about the past?” 尋ねる。ハンナは “Before the trial I never thought about the past. I never had to.” と、応えた。マイケルがかさねて、“What do you feel now?” と聞くと、“It doesn’t matter what I feel. It doesn’t matter what I think. The dead are still dead.” とハンナは云う。 そして “I have learned, kid. I’ve learned to read.” と応えた。

その 1 週間後に、ハンナの社会復帰を手助けする準備をととのえて、マイケルが迎えにきた。彼を待っていたのは…。その早朝にハンナは命を絶っていた。享年 61 歳。そして、自筆の遺書と図書と読書リストが残されていた。読書リストには文学書だけでなくナチの犠牲者の手記、ルドルフ・ヘスの伝記、エルサレムでのアイヒマン裁判に関するハンナ・アーレントの報告書もあった____。

それはベルリンの壁が撤去（1989）されて東西ドイツ連邦共和国になる前年のことであった。

　映画のラストシーンは、丘の上の教会の裏の雑木林の木立の下にある HANNA SCHMITZ 1923-1988 と彫られた墓石のある森である。墓石の前で、父マイケルと娘ジュリアが交わす会話に続けて、マイケルのナラティブで終わる。
JULIA: Who was she?
MICHAEL: That's what I wanted to tell you. That's why we're here.
JULIA: So tell me.
MICHAEL:I was fifteen. I was coming home from school. I was feeling ill. And a woman helped me.

映画と英語
—Well, what would you have done?
Should I never have signed up at Siemens?
わたしが言いたいのは….あなただったら何をしましたか？
わたしはジーメンスで転職を申し出るべきじゃなかったの？

【味わいたいセリフとシーン】
①
ハンナに本を読んであげるマイケル。どんな本だろう？学校の宿題に出された作者ホメーロスの「オデユッセイア」を音読する。ところが、ハンナはこの世界的に有名な詩作品を知らないので、「長い冒険の旅って？」と聞いている。その後、マイケルは復活祭の休みに 2 人で自転車旅行に出かけよう、と提案する。ちょっとした会話だが、幸せに満ちあふれる 2 人を想像できよう。

MICHAEL (face off):　"The Odyssey" by Homer. It's my homework.
MICHAEL (voice over): "The Odyssey" by Homer.
HANNA (off):　What's an odyssey?　＊長い冒険の旅
MICHAEL:　It's a journey. He sets out on a journey.　＊旅に出る
＊"The Odyssey"：詩人ホメーロスの作とされる古代ギリシャの叙事詩で、「イーリアス」の続編。

②
ハンナが失踪し、少年マイケルは傷心して落ち込む。やがて歳月を経て、マイケルは大学に進学して法律を専攻する。法律学のゼミで、当時、ひんぱんに行われていたアウシュヴィッツ裁判の一つをフィールドワークとして傍聴するために、担当教授に引率されて隣町の裁判所へ出かける。そこで法廷に立つハンナを見た。そして、想像に絶することが起こる。判事がハンナに起訴状に書かれた事実を確認する。ハンナがそれを肯定するのを聞いてマイケルは

愕然となる。マイケルとハンナの関係を何もしらないロール教授は、マイケルを気遣って声をかけている。

HANNA (off): I was working at Siemens when I heard the SS was recruiting.

*the Secret Service　ナチス親衛隊

シーメンスで働いていて、親衛隊で新人募集を知りました。

JUDGE (off): Did you know the kind of work you'd be expected to do?

どんな仕事をすることになるか知っていましたか？

HANNA: They were looking for guards. I applied for a job.

看守を募集していましたので、応募しました。

JUDGE (off): And you worked first at Auschwitz?

最初はアウシュヴィッツでしたね。

HANNA (off): Yes.

はい。

JUDGE (off): Until nineteen forty-four.

1944 年まで。

MICHAEL DROPS HIS HEAD. マイケルが頭をうな垂れる。

JUDGE (off) : Then you were moved to a smaller camp near Cracow?

その後にクラクフ近郊の小収容所へ移された？

HANNA (off): Yes.

はい。

Prof. ROHL (overlapping) : (quietly) Are you okay?　大丈夫か？

JUDGE (off): You then helped move the prisoners west in the winter of nineteen forty-four in the so-called death marches?

それから 1944 年の冬、西へ向かって囚人たちをいわば死の行進をさせて移動する手伝いをした？

MICHAEL (overlapping): (quietly) Yeah, I'm fine.　ぼくは大丈夫です。

③

次は帰路の列車の中で法廷審議を傍聴したロール教授が学生たちの感想を聞いている。アウシュヴィッツで働いていたということだけで犯罪者にすべきかどうか、合法か非合法か、The question is never "Was it wrong?" but "Was it legal?" And not by our laws. no, by the laws at the time. と議論をしている。

Prof. ROHL: So what did you think?　ところで君たちはどう思う？

MICHAEL: I don't know. (pause) It wasn't quite what I expecting. 判りません。何も予期していませんでしたのでさっぱり。
Prof. ROHL: Wasn't it? In what way? What were you expecting?
そうかな？どんなふうに？なにか感じることは？
DIETER: I thought it was exciting.
ドキドキする事件だと思いました。
Prof. ROHL (off): Exciting? Why? Why did you think it exciting?
ドキドキするって？なぜ？ドキドキする事件だとなぜ思った？
DIETER: 'Cause it's justice.
正義があるからです。
Prof. ROHL (voice over): Societies think they operate by something called morality, but they don't. They operate by something called law. You're not guilty of anything merely by working at Auschwitz. Eight thousand people worked at Auschwitz. Precisely nineteen have been convicted, and only six for murder. To prove murder you have to prove intent. That's the law. The question is never "Was it wrong?" but "Was it legal?" And not by our laws.no, by the laws at the time.
社会はモラルによって動いているが、そうでないことも。法によって動くこともある。アウシュヴィッツで働いていたというだけでは罪にならない。
8000 人もアウシュヴィッツで働いていた。詳細は 19 人が有罪判決で、6 人だけが殺人罪だ。殺人罪を立証するにはその動機を立証しなければならない。
それが法律だ。問題は「悪かったか」でなく「合法だったか」だ。我々の法によるのでなく、いや、当時の法律によるのでもない。
DIETER: But isn't that narrow?　それは狭くありませんか？
Prof. ROHL: What?　なんだって？
Prof. ROHL：Oh, yes. The law is narrow. On the other hand suspect people who kill other people tend to be aware that it's wrong.　まあ、そうだ。法律は狭いが、一方で、殺人者は悪いと気付いているはずだと嫌疑をかける。

④
起訴事実を確認するため、判事がハンナに誘導尋問をし、ハンナは凛々しく真実を伝えて判事に応えている。だが、収容所の囚人が死ぬことを分かっていながらなぜ移動させたのか、という核心を質問されたハンナは答えに窮す。そして自分に不利になることも考えずに判事に向かって What would you have done? と質問する。見落とせないシーンである。

JUDGE (off): And so far, each of your fellow defendants has specifically denied being part of that process. Now I'm going to ask you. (pause) Were you part of it?
これまでのところ、被告のみなさんはとくにこのことへの参加を否定しています。ところで尋ねますが、あなたは参加しましたか？
HANNA: Yes.　はい。
JUDGE: So you helped make the selection?　それであなたは選別する手伝いをしましたか？
HANNA: Yes.　はい。
JUDGE (off): You admit that?　それを認めますか？
JUDGE: Then tell me...how did that selection happen?　選別をどのように行ったか話してくれませんか？
HANNA (off): There were six guards, so... we decided we'd choose ten people each. That's how we did it every month. We'd all choose ten.
看守は 6 人なので私たちが決めてそれぞれ 10 人選び、毎月やっていました。皆で 10 人選びました。
JUDGE (off): Are you saying your fellow defendants took part in the process?
あなたは仲間の被告たちもこれに参加していたというのですか？
HANNA: We all did　全員でしました。
CAMERA RACKS FOCUS ONTO THE DEFENDANTS AS THEY REACT, SHAKING THEIR HEADS.
JUDGE (off): Even though they've denied it? Saying "we," "we all" is easier than saying "I," "I alone" isn't it, Miss Schmitz?
皆が否定していても？「私たち」とか「私たちみな」の方が「私」とか「私だけ」はしませんというより言い易いからですか、シュミットさん？
JUDGE: Did you not realize that you were sending these women to their deaths?
あなたは女囚人たちを死なせることになると認識していなかったのですか？
HANNA: Yes, but there were new arrivals, new women were arriving all the time, so...the old ones had to make room for the new ones.
はい。でも新しい到着者がいましたので、新しい女囚人たちがどんどん到着するので、古い囚人は新しい囚人に場所を明け渡さなければなりませんでした。
JUDGE: (exhales) I'm not sure you understand.
言っていることがよく分かりませんが。
HANNA (off): But we couldn't keep everyone. There wasn't room.

全員を収容できませんでした。空き場所がなかったのです。
JUDGE (off) (overlapping): No. but what I'm saying. Let me rephrase.
いや、私が言っているのは。繰り返しますが、
To make room, you were picking women out and saying "You, you and you have to be sent back to be killed."
空き場所をつくるために女囚人を選んで、「あなたやあなたとあなたが戻されるのよ」と言っていた。
HANNA: Well, what would you have done?
それじゃー、あなたならどうなさいましたか？
HANNA (off): Should I never have signed up at Siemens?
私がシーメンスの工場で書類に署名しなければよかったの？

［映画情報］
監督：スティーブン・ダルドリー（『めぐりあう時間たち』『リトル・ダンサー』監督）
製作：アンソニー・ミンゲラ／シドニー・ポラック
原作：ベルンハルト・シュリンク「The Reader」（独／英）
脚本：デヴィッド・ヘア
出演：ケイト・ウィンスレット（ハンナ・シュミッツ役）、レイフ・ファインズ（マイケル・バーグ役）、デヴィッド・クロス(青年時代のマイケル・バーグ役)、ブルーノ・ガンツ（ロール教授役）、アレクサンドラ・マリア・ララ（子供時代のイラナ・メイザー役）
Kate Winslet（Hanna Schmitz）
David Kross（the younger Michael Berg） Ralph Fiennes（the older Michael Berg）
Bruno Ganz（Professor Rohl）
製作国：アメリカ／ドイツ 言語：英語
2009 年 6 月 19 日（金）TOHO シネマズ スカラ座ほか全国ロードショー
配給: ショウゲート
●ケイト・ウィンスレットは本映画でアカデミー主演最高女優賞（オスカー像）を受賞.

【関連資料】
親衛隊：Schutzstaffel 略号 the SS はナチス親衛隊、国家主義社会主義ドイツ労働者党の組織。

【映画リテラシー】
●言語：イギリス英語
●場所：ベルリン、NY. グッゲンハイム

●ケイト・ウィンスレットは本映画でアカデミー主演最高女優賞（オスカー像）を受賞.
●第 2 次大戦の終末期から戦後へ移り往くドイツの社会情勢を知れば、物語の深層が理解しやすくなる。
●原作はドイツ高校生の必読書に推薦されている。法律とはなにかを考えさせる。
●原作：ベルンハルト・シュリンク.「The Reader」（独／英） 1995 年に出版され、発売後5年間で20カ国の言語に翻訳された。アメリカでは 200 万部を越えるミリオンセラーになった。「老読者」*Der Vorleser*（1995） は、2000 年、松永美穂訳が新潮社から出版。後に新潮文庫
Bernhard Schlink （1944/7/6-） はドイツの小説家・法学者・法学者 1995 年に自身の少年時代を題材にした『朗読者』を発表、ドイツ、アメリカでベストセラーとなり 39 か国語に翻訳された。

© 2012 m.tsukada. All Rights Reserved.